第５回 鶴川西地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会　議事要旨

開催日時		2024年5月20日（月）　９：２８～11：１０
開催場所		町田市立鶴川第三小学校　視聴覚室（ウェブ会議併用）
出席者 (敬称略)	委員	岩永委員、小池委員、近藤委員、沼尻委員、柄澤委員、切刀委員、竹村委員、大隅委員、田中委員、仲村委員、浅沼委員、山本委員、◎鰺坂委員、〇悴田委員 （◎：会長、〇：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、防災課
傍聴者		０名

議事内容（敬称略）

はじめに　【学校教育部長挨拶】

学校教育部長　　本日はお忙しい中、新たな学校づくり基本計画推進協議会にご出席いただき、感謝申し上げる。

これまで、鶴川西地区における新たな学校づくりでは、委員の皆様との話合いを踏まえ、通学路の実踏調査や統合前の児童交流など、様々な取組を進めてきた。

今年度、鶴川第三小学校と鶴川第四小学校の統合に向けて、通学路の安全対策をはじめ、校歌と校章の制作、歴史の継承などについて取組を進めていく。

この新たな学校づくりというのは、単に建物の新築計画ではなく、地域の拠点としての学校をつくっていこうという試みになっている。この取組を進めていくに当たって、各組織や団体を代表して集まっていただいている皆様と未来の子どもたちのために様々な議論をさせていただき、教育委員会や学校のみならず、皆様でこの取組を推進していきたいと考えている。

町田の未来の子どもたちのよりよい教育のため、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げる。

〔委嘱状交付〕

１　委員自己紹介・会長副会長選任及び開催日程

新たな学校推進課　（資料１－１説明）

（資料１－２各委員自己紹介）

（会長・副会長選任）

（資料１－３説明）

２　第４回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課　（資料２説明）

３　報告事項

（１）鶴川西地区小学校新たな学校づくりに関する取組内容について

新たな学校推進課　（資料３-１説明）

委員　　鶴四小と接している方から、解体工事や新しい校舎の建設時に、どんなことをするのか、車はどこから入るのか、などの説明会は開いてもらえるのかという声があがっている。近隣の方にとってはそういうことがすごく気になるので、計画の中に分かるように入れ込んでいただけるとありがたい。

施設課　　一般的な話になるが、工事は今年・来年設計で、工事に入る前に工事説明会を開催する。事業者が決まった段階で車両がこういう動線で入るという説明も差し上げる。いただいた要望を予定としてしっかり組み入れる。

（２）新たな小学校への歴史の継承について

新たな学校推進課　（資料３-２説明）

委員　　子どもたちからの意見を収集するというところだが、ここまでベースが出来上がっている中で、具体的にどういうことを子どもたちに決めてもらいたいのかというところを教えていただきたい。

新たな学校推進課　全てを残せるものではないので、どういったところが子どもたちにとっての学校の思い出になっているか、大切にしているか、という意見をいただきたいと思っている。特に写真についてはかなり選定のポイントがあると思っている。これを大人たちだけで決めてしまうと漏れてしまう場所があることも心配され、子どもたちの意見で補いたいと思っている。

委員　　先ほど見た本町田地区の事例では、ほとんどが人のいない状態の写真だった。ある意味、ちょっと寂しく感じる。もちろん、人が写ると個人情報の問題があるとは思うが、一部に遠くから写した写真で人が写っているものがあったが、学校をどういう使い方をしていたかということも分かるので、支障のない限りで人の写っている写真も欲しいと思った。

新たな学校推進課　町田市のホームページで、誰でもいつでも閲覧できるという状態のものにする上では、個人情報というところで一定の問題が発生すると思うので、人が写る場合には配慮が必要となる。学校の方とも相談しながら、どんなときに撮影するかということを決めていきたいと思っている。

委員　　子どもたちがいないときでないと、この撮影はできないということか。ただ、子どもたちは、撮影している風景を見てみたいと思っているのではないか。ドローンで撮影された映像はよく見たことがあるが、ドローンが実際に動いていて、その近くにリモコンを持っている人がいてというのはなかなか見られない。だから、ここの撮影をするからここには入らないで、ここまでは入っても大丈夫のような、線引きをしながら撮るというのは面白いと思った。せっかくの機会なので、そこからこの仕事をしてみたいという子もいるだろうし、逆にこの仕事は大変そうだからやってみたかったけれどやめておこうという子も出てくるだろう。そういったきっかけに

なると嬉しいと思った。

委員　　時間的に、そういう時間はないというかもしれないが、撮影現場に子どもたちも先生たちもいると、一緒につくっているという感覚になるのではないか。また、冬休み中では、季節感が出すぎないか。雪だるまの写真が１個あるくらいなら季節感があってもいいが、落葉し、枝しかないような状況での撮影になると、今の若葉の風景ではなくなってしまい寂しくなる。桜はもう撮れないだろうが、その辺りをもう一度考えてもらいたい。

委員　　教室を撮るのであれば、子どもにデジカメを渡して撮ってもらい、それを選定するのもいいのではないか。大人が撮った目線と、子どもが見ている教室の中の雰囲気とは全然違うと思う。勉強したり、友達との机の感じだったり、撮る場所も違うのではないか。これを見返すのは大人になってからでも、それほど頻繁に見返すものでもないと思うので、大人の視点だけでなく、子どもの視点が少し入ったほうがいいと思った。

委員　　ここでは子どもたちというのをどうイメージしたらよいのか。全校の子どもたち、１年生から６年生を対象にしているのか。

新たな学校推進課　イメージしていたのは１年生から６年生。ただ、実際に１年生と６年生では聞くときのアンケートも変わってくると思う。

委員　　小学校を卒業して６０年近くたち、最近同期会があった。私たちの年になると、こういう映像には全然こだわらない。小学校も中学校も木造校舎だったのが変わった。でも、小学校の校歌を一緒に口ずさんだりすると、頭の中にその時代の映像が浮かんでくる。広がる麦畑、遠くの大山、暗い木造校舎、そういうものは心の中にお互いに共有していけばいい。なので、個人的にはほとんどこういうことにはこだわらない。そういう人間もいる。

委員　　そういう方や忙しくて見られない方もいるのはわかる。ただ、先ほどの映像を見たときに、人影がないと廃校したような寂しい感じがしてしまう。写真を撮ったときに学校のほうで承諾をとらなくてはならないなど、いろいろあると思うが、周年の取り組みで校庭に子どもたちが学校の校章の形をして写真を撮っていた。そのような感じで、ドローンで撮るときに子どもたちも一緒に撮ると、見返したときに懐かしさを感じることができていいのではないか。

委員　　学校関係の写真だが、卒業アルバムを例に取ると、何冊作って子どもたちに渡して、残部がどれだけで、それがどうなっているかまで細かく追跡される。社会的に注目され、作るほうも渡すほうも管理が大変な状況。今は子どもたちの写真が出回ることによって、作った人の責任が問われる時代。記念として残すのであれば、あまり子どもたちが写らないほうがいい。子どもたちの様子が写っていないということは、関係した人たちにとっては寂しいかもしれないが、その管理の仕方が非常に難しい時代にあるということを理解して、写真を見て自分たちの思い出がよみがえるという程度でいいと思う。

（３）工事期間中の避難施設について

防災課　　（資料３説明）

委員　　鶴四小の工事中に避難をする必要のある住民は、鶴川三丁目、鶴川四丁目の一部、それから鶴川五丁目の一部の人たちになると思う。ここでは鶴一小、それから鶴中への分散避難を想定しているとなっているが、距離で言えば真光寺中が近く、真光寺中への避難を想定すれば済むのではないか。

防災課　　昨年度の鶴四小の連絡会の中でもそういう話をさせていただいた。その中で、鶴川四丁目富士見会の自主防災組織は真光寺中学の方にも従来から開設訓練に参加しているとのことだったので、ここについては今年度、話合いを進めながら合意をしていきたいと思っている。

会長　　では、真光寺中の方も考えていただくということで、よろしくお願いする。

４　検討事項

新たな小学校の校歌・校章の制作について

新たな学校推進課　（資料４-１説明）

委員　　グループに分かれる前に一つ聞いていただきたい。鶴三小と鶴四小で新しい校章と校歌を考えるとすると、校章のほうは非常に共通点がある。だから、こういう校章にしようというのは難しくないと思っている。しかし校歌のほうは相当難しいと思う。なので、校章の制作過程と校歌の制作過程は分けて考えないと、一緒にこうとはいかないのではないかと思っているということをお伝えしたい。

会長　　なかなか難しいかもしれないということだが、今日のワークショップは実施するということでお願いしたい。

〔　ワークショップ　〕

Ａグループ　　まず、子どもたちで考えられるかという話が出た。やはり校章よりも校歌の方が難しいという話が出た。授業で取り組めるかという声も出たが、やはり負担であり、カリキュラムという点からも難しいだろうという話が出た。専門家という話があったが、どんな方になるのかがわからず、例えば大学生ということもあるという話が出た。国士舘大学という話が以前出ていて、今もボランティアでつながっているので、もう一度そのことも話した。

町田で過去に校歌・校章を作成したときも、作り方・話の進め方が、大学の先生と民間業者とでは少し違った。子どもたちの意見を作成者に当てながら、やり取りしながらつくっていくという流れを考えると、業者のほうがいろいろ柔軟に対応できていた。

子どもたちから意見を集めるというステップは、提案されている流れとしては、まずは広く意見を集めて、その後に代表の子たちが集まってまとめるというやり方はいいだろうという意見が出た。歴史の継承とは別の話になるので、今のものを大

事にするのはもちろんだが、未来志向で新しいイメージをちゃんと取り入れながら進めることが大事という話も出た。実際にどんなふうに子どもたちから意見をもらうかという最初のステップでは、必ずしも言葉だけではなくて、絵などでイメージや世界観を出せるという声が出た。１年生と６年生とでは校歌に対する印象は違うかもしれないので、いろいろ工夫しながら子どもたちの意見を集められるといいのではないか、という声が出た

Bグループ　　制作については、これから子どもたちに、校歌のフレーズや校章のイメージを聞いていく上で、改めて校歌、校章は何でできているのか、その意味合いを認識することを重視するような形にするのがよいという声が出た。例えば鶴川の意味で言うと、もともと鶴見川が流れていて続いた町ということで、そこから鶴川という地名を取ったというのを教えていく。子どもたちが統合に関わることで学校に興味を持ってくれるので、形だけ子どもたちの意見を収集するのではなく、子どもたちが関わる意味というのも重視して教えていきたい。子どもたちも、そのルールの中では決めることはできるので、一定のルールの中でどういったことができるかということを考えるような会ができればいい、という話が出た。

校歌については、フレーズを募集するのは子どもたちでできるが、メロディーを作ったり、締切りがある中で完成まで作っていくためには、やはり専門家の力を借りることは必要という話が出た。

方向性の決定の部分では、小学生やＯＢの中学生たちが集まって話合いをするのはいいが、そこに専門業者が入っていくと、どうしても大人が子どもたちをリードしてしまう。そうならないよう、大人が主導権を握らないようなやり方でしっかりやることが必要であるという話が出た。そのために、例えばＰＴＡの方々に集まっていただいたり、先生たちも忙しくなければ関わっていただくようなやり方がいいのではないかというような意見が出た。

会長　　（閉会のあいさつ）